

序 文

昨年六月一九日の早朝、わが青山学院史学科の重鎮として長年、大学協議会委員ほかの要職を務めてこられた沼田哲先生がお亡くなりになりました。先生の、誰彼とも分け隔てなく接するその気さくなお人柄については、ここでいまさら申すまでもありません。今回、『青山史学』としては異例の追悼号を編むにいたった経緯も、現役での急逝という特別の事態にとどまらない、その幅広いご人望に発しますことは勿論です。

沼田先生はなにごとについても「親分肌」の人でした。「孤独を愛する青白き…」というイメージとは正反対の、大勢の人々が集うにぎやかな場が良く似合っておりました。多くの研究会を主宰されていたとも仄聞いたします。この追悼号が、そのような先生にふさわしいにぎやかで充実したものとなりましたことを、史学科一同、安堵する次第です。

今号の構成は論文と研究ノート、報告を併せて一五本、うち沼田先生のお弟子さんをはじめとする日本の近世史・近代史関係の研究成果が八本におよぶ盛り沢山な内容です。ひとえに編集に携わった岩田みゆき助教授ほか多くの方々のご尽力によるものと深く御礼を申しあげます。

本号を先生のご霊前にささげ、ご冥福をお祈りいたします。

二〇〇五年三月

史学科主任 浅井和春